

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

### 事業名 ハラル認証飛驒牛輸出定着支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 輸出戦略係 電話番号：058-272-1111(内4066)

E-mail：c11444@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額：5,000 千円)

※R3. 3月補正額

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

- イスラム諸国への商業ベースの飛驒牛輸出は開始されて間もなく、現地での飛驒牛の認知度向上・販売定着に向けて更なる輸出促進を図る必要がある。  
※ 現在、日本から輸出できる国は、5か国（マレーシア、インドネシア、UAE、カタール、バーレーン）  
そのうち、飛驒牛輸出実績のある国は、4か国（マレーシア、インドネシア、カタール、バーレーン）
- 世界人口の4分の1（約16億人）を占めるイスラム諸国へ飛驒牛の輸出拡大の取組みは、「ぎふ農業・農村基本計画」の目標達成に不可欠である。
- 一方、輸出事業者は、肉用牛の値上げ、燃料費高騰やコンテナ不足による輸送経費増に加え、ハラル認証飛驒牛を食肉処理する経費、食肉処理施設までの輸送費など、掛かり増し経費が発生しており、これが、取扱事業者や、数量が増加しない大きな要因となっている。
- R3年度は、マレーシアからのハラル飛驒牛の引き合いが多くなってきたが、輸送経費等の掛かり増し分が販売価格に上乗せされたため、取り引きが実現しなかった事例もあり、現地での飛驒牛の地位を確立するために、食肉販売事業者からは掛かり増し分への支援継続を求める声が寄せられている。
- ハラル認証飛驒牛の輸出に取り組む食肉販売事業者を支援し、イスラム諸国への輸出定着を図るため、県外食肉処理施設に輸送する経費の一部を支援する。

県外食肉処理施設への輸送経費の一部を支援し、商流ベースでの輸出が開始されて間もないイスラム諸国（マレーシア、インドネシア、カタール、バーレーン）への輸出定着を図る。

【対象者】イスラム諸国への輸出に取り組む食肉販売事業者

【補助率】定額 食肉処理1回あたり100千円

(3) 県負担・補助率の考え方

県産農産物の輸出促進及び販路拡大は県の重要施策であり、県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	1回当たりの輸送経費：100千円×50週（年間：年末年始を除く）
合計	5,000	

**決定額の考え方**

事業効果が不明であるため、計上を見送ります。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（H31年3月策定）  
3（1）④ 「ぎふブランド」づくり（情報発信・販路拡大）
- ・新たな「ぎふ農業・農村基本計画」（R3年3月策定）  
（3）ぎふ農畜水産物のブランド展開 ①輸出拡大の強化

(2) 国・他県の状況

国においては、農林水産物・食品の輸出額5兆円を目指すとした「食料・農業・農村基本計画」（R2年3月）を策定する等、国全体での輸出促進への取組をさらに加速している。

(3) 後年度の財政負担

次年度以降も継続して実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県内農畜水産物の情報発信や輸出を含めた販路の拡大については、創生総合戦略でも県の役割として位置づけられており、県負担は妥当。

## 県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	ハラール認証飛騨牛輸出定着支援事業費補助金
補助事業者(団体)	イスラム諸国への輸出に取り組む食肉事業者 (理由) 輸出にかかる経費が増加する中、イスラム諸国への輸出定着を図るため。
補助事業の概要	(目的) イスラム諸国への輸出に必要な輸送経費の掛かり増し分を支援する (内容) 県外食肉処理施設へのトラック借上げ費、高速道路料金、燃料代金等の掛かり増し経費相当
補助率・補助単価等	<b>定額・定率・その他(例:人件費相当額)</b> (内容) 食肉処理1回当たり100千円 (理由) ハラール認証を取得した食肉処理施設までの輸送経費が輸出拡大に大きな負担となっているため。
補助効果	イスラム諸国への輸出量が増加
終期の設定	終期5年度 (理由) ウクライナ情勢や燃油代高騰等による必要経費増に加え、イスラム諸国への飛騨牛輸出には、県外食肉処理施設での食肉処理に伴う掛かり増し経費が発生。輸出への取組みは、県の農業支援対策の一環であり、積極的に取り組もうとする事業者への支援が必要。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか  
イスラム諸国への飛騨牛の輸出量が増加するとともに、輸出先国が拡大する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R元)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	
					目標	達成率
①ハラール飛騨牛の 年間輸出頭数(頭)	16	38	65	92	120	32%

補助金交付実績 (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	0	0	0

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。</li> </ul>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>同様の補助金は実施しておらず、マレーシアでの現地プロモーション（大手小売店に飛騨牛のPR資材を提供し、販売促進キャンペーン）等、飛騨牛の拡売に向けた需要喚起に向けた施策を展開。</li> </ul>
	指標① 目標：35頭 実績：38頭 達成率：108.6 %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li> </ul>
(評価)  3	<p>世界でも16億人といわれるイスラム諸国は、東南アジア・中東を中心に、近年の経済発展による富裕層の増加や日本食ブームの進展を背景に、和牛をはじめとしたハラール食品の需要が高まっており、新たな市場として有望である。あらゆる物価が高騰する中、支援が定着までの必要。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li> </ul>
(評価)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li> </ul>
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>事業が直面する課題や改善が必要な事項 ハラール認証飛騨牛の取り扱い量が少ないため、認知度向上が必要である。 イスラム諸国への飛騨牛取扱量の増加により、掛かり増し経費を削減できる。</li> </ul>
---

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 市場規模の大きいイスラム諸国をターゲットとすることで、輸出先国及び取扱数量の拡大に継続して取り組む。</li> </ul>
--